

短歌集

たん  
か

しゅう

はねず日記

に  
つき

第二集

鹿江朱華

かのえ

はねず

## 【まえがき】

皆様、こんにちは。鹿江かのえ朱華はねづです。

この度は当歌集『はねず日記』の第二集を手に取つて下さり、まことに有り難う御座あがとございます！

前巻にあたる『はねず日記』第一集を出してから、今巻を出すに至るまで、すう数ヶ月ほど掛かってしました。お待まつたせしてしまい、大変申し訳ありません(汗)。

思い付き次第、SNSに短歌を投稿し続けた結果……その数なんと、三〇〇首を突破しておりました！  
これもひとえに、皆様の支えや応援があつてこそですし、周りの皆様には、感謝してもしきれない程ほどです。

今巻も、計三〇首(三一首目～六〇首目)ほどの自作短歌を、紹介していくうと思います。

拙つたない作品ばかりですが……皆様にとってのお気に入りの短歌が、どれか一首だけでも見つかれば、私としても非常に喜ばしいです。

『はねず日記』第二集、どうか最後までお楽しみ下さい。

目 次

あとがき	第六章	第五章	第四章
•	(五一)	(四一)	(三一)
•	{六〇)	{五〇)	{四〇)
•	•	•	•
•	•	•	•
•	•	•	•
•	•	•	•
•	•	•	•
•	•	•	•
2 3	1 7	1 1	5

※ 無断転載・複製・複写・Web上への掲載（SNS・  
ネットオークション・フリマアプリ含む）は禁止です。  
(但し、当歌集入手した旨を報告する目的に限り、表  
紙のみを撮影・掲載するのは可)

※ 処分する際は、可燃ゴミとして廃棄してください。

※ 当歌集を出すにあたり、短歌を数首ほど手直し（推敲）  
したので、当時SNSにて発表したものとは、少し違つ  
ております。

第  
四  
章

三  
一

}  
四  
○

私わたしにも

見せた事こと無い

表情ひょうじょうに

芽生めばえる嫉妬しつ

酷ひどく厄やつ介かい

(一一〇一二三年 二月 八日)

滅ほろびゆく

国くにを一緒に

抜け出して

故鄉こきょうの村むらで

王女おうじょと暮らす

(一一〇一二三年 二月 八日)

咲き誇る

甘き香りの

友達が

ミシン壊した

らしいけど

うちは4回

壊しましたよ

ヒヤシンス

思ひ出されし

嘗ての恋慕

(一一〇一二三年 二月 八日)

(一一〇一二三年 二月 八日)

何<sup>なに</sup>  
氣<sup>い</sup>  
無<sup>く</sup>

名前<sup>なまえ</sup>  
を呼ばれ

振り向<sup>むけ</sup>げば

嬉<sup>うれ</sup>しく笑<sup>う</sup>う

君<sup>きみ</sup>  
の姿<sup>すがた</sup>  
が

(二〇一二年 二月 九日)

解<sup>かい</sup>  
鍊<sup>れん</sup>  
す

鍵<sup>かぎ</sup>  
を探<sup>さ</sup>した

其<sup>そ</sup>  
の結果<sup>け</sup>

僕<sup>ぼく</sup>  
ら一<sup>ひとり</sup>人の

手<sup>しゅ</sup>  
中<sup>ちゅう</sup>  
にあらん

(二〇一二年 二月 九日)

彼らにも

成長の芽は

存在し

大樹と成りて

いざれ必ず

目の前のまえの

ステージ上へ

駆け上がる

しゃんと胸張り

いざ披露せん

(二〇一二年二月一〇日)

(二〇一二年二月一〇日)

強過ぎる

ボスもどうかと

思ひます

渡り合う者

居らず孤独だ

(一一〇一一三年二月一〇日)

夏時は

涼しさのみを

恋しがる

逆に冬時

暖のみ欲す

(一一〇一一三年二月一〇日)

第  
五  
章

四  
一  
}  
五  
○

少しでも

高みを目指し

此の翼

大きく広げ

羽ばたいてゆく

(一一〇一一三年二月一一日)

失敗を

引き摺るならば

其の部分

リセットの後

いざリベンジだ

(一一〇一一三年二月一一日)

どの色に

染そまらぬものと

思おもうたが

今いまやすつかり

貴あなた方たい一いっ色しき

(一〇一二三年二月一二日)

楽たのしくて

和なごむ時ときほど

速はやく過ぎす

つまらぬ時間じかん

経たつのが遅おそき

(一〇一二三年二月一二日)

お揃いの

パジャマを着ては

ベッドへと

夢のなかにて

デートしようか

(一一〇一一三年二月一二一日)

便箋と

筆ふでを用意し

書き記す

口には出せぬ

此方の気持ち

(一一〇一一三年二月一二一日)

君の肌  
きみのはだ

吸付くやうに  
すくはうに

柔らかく  
やわらかく

気が付けばつい  
つけばつい

手を伸ばしてゐる  
のびのばしてゐる

(一〇一二三年二月一二日)

何なんかいも

繰り返されし  
くりかえされし

回り道  
まわらぢ

終わると共に  
まわるとともに

君と再会  
きみとさいゑ

(一〇一二三年二月一二日)

土壇場で

鬪志戻らば

立ち直り

只で倒れぬ

そう言い聞かせ

(一一〇一一三年二月一三日)

こちら向き

ワンと吠えでは

いるけれど

伝えたい事

あると予想す

(一一〇一一三年二月一三日)

第六章

五一

}六〇

遊園地

あの日見上げた

青き空

幼心に

切なさ染みて

(一〇一二年二月一三日)

抱えるは

愛いと勇気と

チヨコレート

君に届けと

強く願わん

(一〇一二年二月一四日)

甘い物の

どうも苦手と

言ふならば

真つ赤に咲いた

お花は如何？

(一九二三年二月十四日)

假り初めの

“普通の自分”

崩さぬと

ボーカーフェイス

固く演ずる

(一九二三年二月十四日)

寝室に

幾冊も

ウサギの耳みみが

長く眠ねむらせ

落ちている

続けたが

これは昨夜さくやに

いつそ纏まといめて

付けたカチューシャ

売うりてしまわん

(一一〇一二三年 二月 一四日)

(一一〇一二三年 二月 一五日)

カラオケで

吐き出す様に

歌うるは

精神的な

デトックスです

(二〇一二年二月一五日)

春来たら

共ともに桜を

見に行こう

其その約束で

冬越せそうだ

(二〇一二年二月一五日)

正確に

狙ねらい定さだめて

トリガーを

引けばそこへと

一直線さ

(一〇一二年二月一五日)

幸せを

夢見る吾われに

現れん

叶かなわぬ筈の

甘き幻まぼろし

(一〇一二年二月一六日)

## 【あとがき】

『はねず日記』第二集、如何いかがでしたか？

当歌集を最後まで読んで下さった皆様には、やはり筆者として、感謝しかありません。

よくよく見返してみると……他の歌人ユーヴィーさんが提供して下さった、上の句もしくは下の句、そしてお題などを拝借して、自分なりに詠んだ物……それらが今卷の殆どを占めてる事に、今頃気付いてしまいました（笑）。

ですが私の場合、短歌が思い浮かばず行き詰った時は、そのお題などにより、短歌を詠めたりするので、その度に助けられています。

勿論、他の歌人ユーヴィーさんが詠んだ短歌から、インスピレーションを得たりしていますが……他の方々の作品と丸被りにならないよう、細心の注意を払いながら、自分なりに表現していく事も、しっかりと心掛けております。

余程の状況でない限りは、決して焦らない事や、その瞬間の閃き等も、大切にしていきたいですね！

次巻である『はねず日記』第三集も、頑張って出そうと思っています。

興味のある方は是非とも、実際に手に取ってみて下さい。  
ご感想も、SNSやメール等で、常時受付中です♪

皆様の短歌ライフが、より豊かになる事を、心から願つて……。

# 短歌集 はねず日記 第二集

---

発行日：2025年 10月 5日

著 者：鹿江 朱華

連絡先：[svwft66918@yahoo.co.jp](mailto:svwft66918@yahoo.co.jp)

印刷所：セブンイレブン、  
ファミリーマート、  
ミニストップ、  
ポプラグループ、ローソン

X（旧Twitter）ID：[@hnz97713518](https://twitter.com/hnz97713518)